

韓国青年訪日第1団（招へい）の記録

1. プログラム概要

【目的】

「対日理解促進交流プログラム(JENESYS2022)」の一環として、在大韓民国日本国大使館にて選抜された大学生・大学院生・社会人等の青年を招聘し、テーマ「東京オリンピック・パラリンピックホストタウン視察」の下、講義聴講、各種視察、学校訪問、同世代交流等を通じて、日本に対する理解を深めることにより、今後の日韓間の相互理解と信頼関係の増進の基盤強化に寄与することを主目的とする。

【参加者】

事前学習（オンライン）：韓国の大学生・大学院生・社会人等 19 名

招へい（オフライン）：韓国の大学生・大学院生・社会人等 17 名

【訪問地】

東京都、京都府京丹後市

2. 日程

事前学習（オンライン）

9 月 16 日（金曜日） 京都府京丹後市の概要含む訪問先説明・意見交換

来日プログラム

9 月 23 日（金曜日） 成田国際空港より入国、来日時オリエンテーション

9 月 24 日（土曜日） 終日、日本の若者との同世代交流

東京オリンピック・パラリンピック関連施設（国立競技場、日本オリンピックミュージアム）視察、グループ別ディスカッション

9 月 25 日（日曜日） 終日、日本の若者との同世代交流

テーマ「日本の歴史的建造物の保存と復元、それらの利用法について」に沿って、都内フィールドワーク

9 月 26 日（月曜日） 外務省表敬及び講義聴講「最近の日韓関係」、駐日韓国大使館 韓国文化院視察、京都市へ移動

9 月 27 日（火曜日） 京都市から京丹後市へ移動、京丹後市役所表敬及び講義聴講「京丹後市の概要と韓国ホストタウンになったきっかけ」・意見交換、琴引浜（海洋ゴミ対策）視察

9 月 28 日（水曜日） 京丹後市久美浜湾カヌーセンター視察、京都府立丹後緑風高校久美浜校（韓国ホストタウン決定につながるカヌー交流校）訪問・意見交換、関西国際空港へ移動、報告会（訪日成果・帰国後の活動計画発表）

9 月 29 日（木曜日） 関西国際空港より出国

3. プログラム記録写真（訪問地：東京都、京都府京丹後市）

	
9月24日【視察】国立競技場	9月24日【交流・意見交換】日韓同世代同士のグループ別ディスカッション
	
9月26日【表敬訪問・講義】外務省	9月27日【表敬訪問・講義】京丹後市役所
	
9月28日【視察】京丹後市久美浜湾カヌーセンター	9月28日【学校訪問・意見交換】京都府立丹後緑風高校久美浜校

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 韓国 社会人

外国人にとっては馴染みのない京丹後市を訪問し、京丹後の魅力を存分に感じることができました。カヌーを通じて韓国との交流があることも初めて知り、地元の高校生との交流を通じて、日本の若者がいかに韓国への関心が高く、交流を願っているのかも感じることができ、とても光栄に思いました。過去は変えられませんが、未来はいくらでも変えることができます。日韓の若い世代には、両国の歴史にとらわれず、未来を切り拓いてほしいと思います。

◆ 韓国 大学生

今回の滞在では、様々な機関訪問と視察、また有益な各講義を通じて、広い意味での日韓関係（国家と国家）、また同世代交流を通じて狭い意味での日韓関係（個人と個人）について、大いに学ぶ機会となりました。未来を担っていく若い世代として、日韓関係をいかに認識し、築いていけばいいのかという問いに対する回答を得ることができる非常に貴重な時間になりました。特に、外務省表敬と講義、京都府京丹後市役所で市長のお話をうかがえたことと地元の高校生と交流できたことが印象深かったです。

◆ 韓国 大学生

今回の訪日プログラムで最も印象に残っているのは、東京オリンピック・パラリンピックが開催された国立競技場と日本オリンピックミュージアムです。2022 年の現在の視点から、コロナを克服して開催された東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の感動を新たに感じ、ポスト・コロナ時代を迎える日本の様子を学ぶことができました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 京丹後市関係者

これまでのカヌー交流やホストタウンの取組などが実を結び、今回訪問いただいたことに心より感謝申し上げます。短い滞在でしたが、丹後緑風高校での生徒との交流では、同世代の人たちが、お互いの国の言葉で相手を思いやり、心を通わせる姿がとても感動的でした。今後も交流を続け理解を深められることを期待しています。

◆ 日本側同世代交流団体関係者

コロナの影響で約 2 年半ぶりに、訪日団の皆さんとオフラインでの交流となりましたが、アイスブレイク、討論、国立競技場視察等々、楽しく、感慨深い時間となりました。ここ 2 年間、私たち若者の日韓両国との関わりと言えば、コンテンツの消費が主な人も多い中、今回の交流を通じてお互い、コロナ前にお互いの国に関わった経験を見つめ直すこととなり、今後もこのような活動に携わりたいと感じる 2 日間でした。

6. 参加者の対外発信



JKAF(대학생 방한단 동창 조직) 소속 청년들과의 교류 활동 소개:
토론 활동을 통해 공통으로 주어진 주제(포스트 코로나와 한일관계에 대하여)에 대해 한일 양국의 청년이 함께 의논하여 최적의 대안을 도출해내고 실천 방안을 모색함(코로나 상황과 대처 방법에 대한 차이가 한일관계에 영향을 미치고 있는 가운데, 한일 뿐만 아니라 세계적으로 기준이 되는 법을 제정하거나 혹은 하나의 문화로서 서로를 인정하고 존중하자는 결론 도출.)



외무성은 한국의 외교부에 해당하는 곳으로, 이곳에서는 포스트 코로나시대의 한일관계에 대한 강의를 들을 수 있었다. 외교관님의 간단한 소개를 시작으로 포스트 코로나 시대에 일본의 변화와 한일관계에 대해 이야기해주었다. 국제정세가 어떻게 변화되어 가고 있는지, 한일관계에는 어떤 구조적 변화가 필요한지에 대해 생각해볼 수 있는 시간이었다. 한 가지 귀여웠던 모먼트는 외교관님 딱

日韓同世代交流についての発信

「ポストコロナと日韓関係」というテーマで日韓両国の若者が討論した。現在日韓ではコロナ対策も異なり、それらが日韓関係にどう影響を与えるか意見を出し合うところから始め、最終的にこれは日韓の問題のみならず、世界的にポストコロナの基準を立てる必要があり、異なる点をも1つの文化として考え、お互い認め合い、尊重しようという結論を導き出した。

外務省表敬と講義についての発信

外務省ではポストコロナ時代の日韓関係についての講義を聴いた。外交官の方から、簡単な自己紹介があり、ポストコロナ時代の日本の変化と日韓関係、国際情勢がどのように変化していくのか、日韓関係にはどのような構造変化が必要なのかについてお話をうかがい、それらの問題について考えてみる時間となった。



京都府立丹後緑風高校久美浜校での交流についての発信

韓国の文化に強い関心のある高校生の皆さんと交流する時間を持った。韓国語で挨拶もし、私達との会話で感極まったのか涙まで流し、私も胸が熱くなった。積極的に近づいてくれる日本の高校生の純粋な思いと、私達はお互いのことが本当に大好きであると感じることができた。私も相手のことを身近に感じ、ありがたく思った。

마지막으로 국가와 국가 관계라는 큰 규모에서, 사람과 사람 관계의 작은 규모까지 우호적인 한일 관계를 위해 힘쓰는 사람들을 만나 희망과 미래를 보게 되었어요.

저 또한 그분들 덕분에 좋은 친구들과 멋진 시간을 보낼 수 있었다고 생각해요. 앞으로 이분들에게 들은 이야기를 잊지 않고, 저도 제 자리에서 양국의 평화와 우호적 관계를 위해 힘쓰고 싶어요.



訪日団を終えた感想についての発信

今回の訪日団に参加して、国家間の関係を担う外務省の方から、京丹後市の関係者、日本の若者との交流のような人間同士の関係に至るまで、友好的な日韓関係のために尽力されている方々と出会い、未来と希望を見出すことができました。今回で会った方々のお話を忘れることなく、私もできる範囲内で両国の平和と友好関係のために力を注ぎたいです。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

본교 일어일문학과 후배 및 JENESYS 참가 희망자를 대상으로 한 설명 기회가 주어질 것으로 보임. 과거 경험을 리마인드 하면서 이번 방일 프로그램에 대한 내용은 물론, 온라인 방일단으로서의 활동도 함께 소개할 예정.(일본 외무성의 한일 교류 사업은 포스트 코로나 시대에서도 적극적으로 이루어지고 있음을 알리고자 함.)	이번 프로그램이 참여한 문화원리porter들의 이야기를 기사형식으로 작성, SNS발신할 예정입니다. 리porter들과 정기적인 모임을 통해 한일 교류에 대한 마음과 의지를 계속 유지하고 여행업이라는 직업을 가진 특성을 살려 JKAF분들과 같은 일본분들의 한국방문도 도움이 될 수 있는 부분이 있다면 도우려고 합니다 이번 JENESYS2022 한국청년방일단으로 참여한 소감부터 가장 기억에 남는 순간, 애초에 문화원리porter에 대해 알게 된 계기와 리porter가 되려고 한 이유 등 리porter들의 이야기를 취재하여 한사람한사람 서르다른 이야기가 많은 사람들에게 알려질 수 있도록 준비하여 게재한다면 일본과 한일 교류에 관심을 가진 많은 사람들에게 적지않은 울림을 줄거라 생각합니다.
アクション・プランの発表 1 大学の後輩及び JENESYS 参加希望者に今回の体験を話す機会が与えられる予定なので、今回のプログラム内容についてはもちろん、日本の外務省の日韓交流事業は、ポストコロナ時代にも積極的に行われていることを伝えたい。	アクション・プランの発表 2 今回のプログラム内容を記事化し、SNS 発信する予定です。また、参加者同士で定期的な同窓会を実施しながら日韓交流についての思いと意思を持続化させ、旅行業界で仕事をしているので、韓国を訪問する日本の方々の手助けもできればと思います。そして、今回の訪日団に参加した仲間を対象に、参加した理由やきっかけや思い等から訪日団に参加した感想等を取材して、様々なケースがあることを伝えられるように記事化し、日本と日韓交流に関心のある方々に大きな感動を与えることができればと思っています。

実施団体名：公益財団法人 日韓文化交流基金